

第4回 大滝ダム貯水池斜面对策検討委員会

議事要旨

日時：平成20年3月9日（日） 14：00～15：30

場所：ホテル大阪ガーデンパレス 2階 「桜」

出席者：

委員長	田村 武	（京都大学大学院 教授）
委員	千木良 雅弘	（京都大学防災研究所 教授）
〃	角 哲也	（京都大学大学院 准教授）
〃	吉松 弘行	（社団法人日本地すべり学会 理事）
〃	平野 勇	（独立行政法人土木研究所 地質監）
〃	安田 成夫	（国土技術政策総合研究所 水資源研究室長）
〃	佐々木 靖人	（独立行政法人土木研究所 上席研究員【地質】）
〃	藤澤 和範	（独立行政法人土木研究所 上席研究員【地すべり】）

議事：

大滝地区、迫地区における現状、試験湛水前後の貯水池斜面の安全性を確保するため、計器観測の結果並びに今後の地すべり挙動計測、監視体制について、以下のとおり確認した。

観測結果と今後の計測・監視体制について

現在、継続されている計器観測結果より、両地区ともすべり面付近においてごくわずかな変位が見られるものの、地表面における変状がなく、局所的な動きであり安全であることを確認した。なお、今回の計測結果を踏まえ、大滝地区については湛水後の安全の確保に万全を期すため、第3回委員会で確認した対策工を詳細設計において補強するものとした。

現在設置している計器については、試験湛水前後の地すべり挙動を把握するため、今後も継続観測するとともに、新たに観測計器を設置する。試験湛水前～試験湛水時～管理運用時の各段階における監視は、巡視による目視と計器観測を主体に行い、各段階の観測頻度は、湛水による斜面の安定度および安全管理における重要度合いに応じたものとする。